

創造的活動時間創出プロジェクト

—構造改革と業務改革の両輪で進める大学の機能強化—

背景

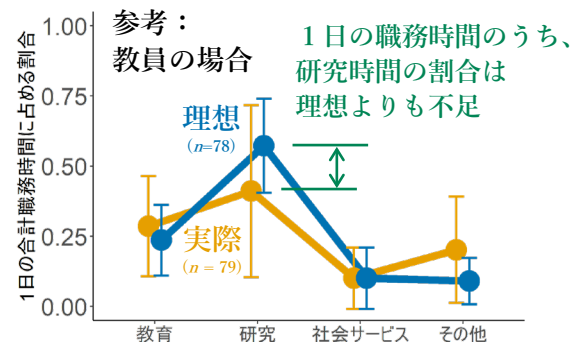
日本の研究力低下の共通要因として、研究以外の業務増加による研究時間の減少が指摘。
創造時間不足は、個人の問題ではなく、構造の問題

創造時間：研究や企画等の創造的活動に充てる時間

本学はこれまでも、創造時間確保に向けた取組みを進めてきた

大学を取り巻く環境は高度化・複雑化し、業務も年々増加・複雑化…

教職員の創造時間は十分に確保されず、時間の細分化が創造性の妨げに



伸びしろ

1. 創造時間を軸にした制度設計

2. 見直し続ける仕組みの定着

3. 不要業務を手放す文化の後押し

本学には、時間創出に向けた実績・人材・体制がすでにある。それらを部局横断でつなぎ、創造時間として可視化・横展開する

時間価値創出タスクフォース

川端和重／理事・副学長
TCタスク
考える時間を、未来の価値に。

春川訓容／副理事・自然科学系事務部長
中川雄一郎／総務部人事企画課副課長
鈴木誠之／総務部総務課副課長
石添慶太／総務部人事企画課係長
佐藤佑太郎／経営戦略本部UA室一般UA

論点整理・効果や好事例の可視化・実装支援・横展開を通じて、学内の各取組の前進を促す

メンバーは2026年7月時点

各部局に根差した時間創出の再設計—納得と安心をつくる改革へ—

小さな成功から創出

好事例や効果を可視化・発信

型や仕組みを定着

水平展開

目標：教職員合計で

60万時間/年
創造時間の増加



再設計の4つの観点

機能の再設計

やめられる業務は、やめる

分業の再設計

業務を最適な担い手へ再配置

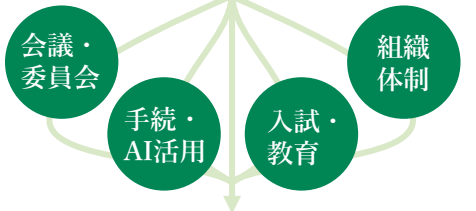
体制の再設計

組織を組み替える

流れの再設計

同じ仕事をより簡単に

教員の研究時間確保に限らず、教職員全体の業務構造を見直し、専門性とやりがいを発揮できる時間を創出する



創造時間創出という共通目的に接続

目的

時間の構造を変え、教職員一人ひとりの創造性を引き出す。本学の創造ポテンシャルを最大限に発揮し、その姿を次世代へつなぐ

※ 本図は新潟大学J-PEAKSウェブサイト掲載用に簡略化した案です。詳細な内容は今後変更となる可能性があります。